

第6章 認定調査項目からみた要介護高齢者の経年的変化の比較

1. 基本情報の経年的変化

(1) 麻痺（左上）

全体として麻痺（左上）は、初回は、「なし」が14,139名（87.5%）、「あり」が2017名（12.4%）であった。2回目は、「なし」が14,115名（87.6%）、「あり」が2001名（12.4%）であった。3回目は、「なし」が14,047名（86.9%）、「あり」が2,109名（13.1%）であった。4回目は、「なし」が13,800名（85.4%）、「あり」が2,356名（14.6%）であった。

これらの結果、初回と2回目は、ほとんど変化なかったが、3回目に「あり」の割合が増加し、4回目にさらに増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護度1までは、「麻痺なし」の割合が初回から、回数が増加するにしたがって、減少していたが、要介護2～5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から2回目以降の「麻痺なし」の割合には、要介護度別に特徴があった。

初回から、2回目は、以下のように増加していた。要介護2は、84.5%から84.8%、要介護3は、80.5%から81.3%に、要介護4は、70.7%から74.0%へ、要介護5は、59.7%から76.1%といずれも増加していたが、要介護5の増加は、他の要介護度と比較して大きかった。

2回目から3回目および4回目への変化においては、要介護2、3、5においては、認定回数が増えるにしたがって減少していた。要介護2は3回目が84.6%、4回目が82.9%へ、同様に、要介護3は、80.2%、78.1%へ、要介護5は、75.2%、71.6%とそれぞれ減少していた。しかし、要介護4においては3回目も増加し、74.1%となっていたが、4回目は、71.4%と減少していた。要介護4、5においては、初回の認定において、「麻痺あり」の割合が他の認定時よりも高かった。

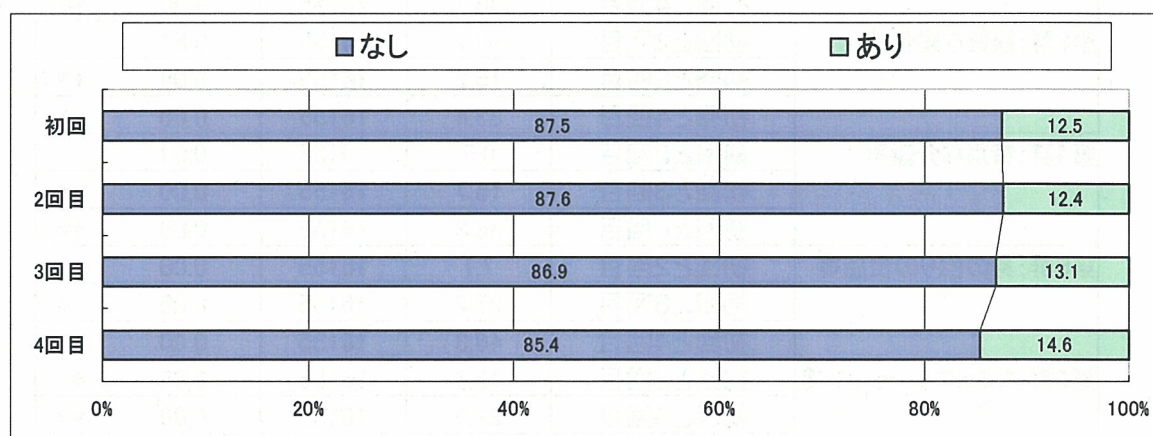


図 22 麻痺（左上）（N=16,156）

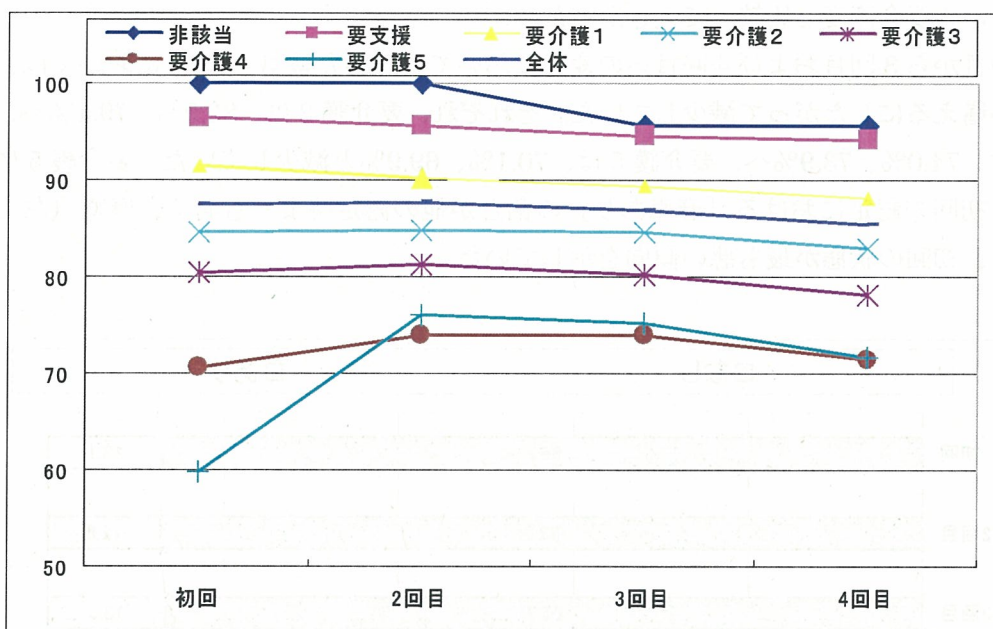


図 23 要介護度別麻痺（左上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

表 65 要介護度別麻痺（左上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.4	91.5	84.5	80.5	70.7	59.7	87.5
2回目	100	95.5	90.2	84.8	81.3	74.0	76.1	87.6
3回目	95.7	94.7	89.5	84.6	80.2	74.1	75.2	86.9
4回目	95.7	94.1	88.1	82.9	78.1	71.4	71.6	85.4

(2) 麻痺（右上）

全体として麻痺（右上）は、初回は、「なし」が14,047名（86.9%）、「あり」2,109名（13.1%）であった。2回目は、「なし」が14,094名（87.2%）、「あり」が2,062名（12.8%）であった。3回目は、「なし」が14,002名（86.7%）、「あり」が2,154名（13.3%）であった。4回目は、「なし」が13,753名（85.1%）、「あり」が2,403名（14.9%）であった。

これらの結果からは、「麻痺あり」の割合は、初回よりも2回目に行った減少し、3回目、4回目と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護度1までは、「麻痺なし」の割合が初回から、回数が増加するにしたがって、減少していたが、要介護2～5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から2回目以降の「麻痺なし」の割合には、要介護度別に特徴があった。

要介護2は、83.4%から84.2%に、要介護3は、81.3%から81.6%に、要介護4は、70.8%から74.8%へ、要介護5は、53.4%から70.1%といずれも増加していたが、要介護5の増

加は、他の要介護度と比較して大きかった。

2回目から3回目および4回目への変化においては、要介護3、4、5においては、認定回数が増えるにしたがって減少していた。それぞれ、要介護3は、80.9%、79.1%へ、要介護4は、74.0%、73.9%へ、要介護5は、70.1%、69.9%と減少していた。要介護5においては、初回の認定における「麻痺あり」の割合が他の認定時よりも高く、麻痺（左上）と同様に、初回の状態が最も悪い傾向を示していた。

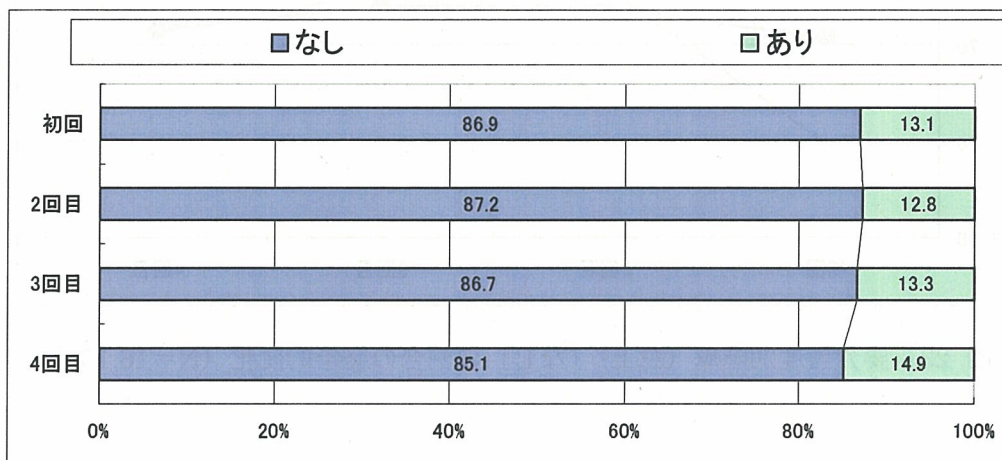


図 24 麻痺（右上）（N=16,156）

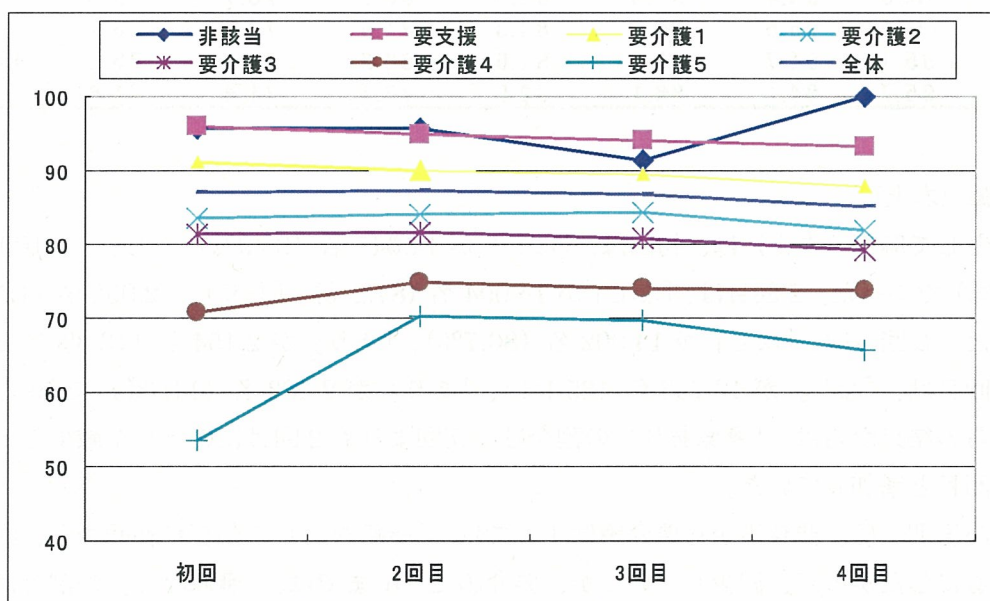


図 25 要介護度別麻痺（右上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

表 66 要介護度別麻痺（右上）「なし」の割合の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	95.9	91.0	83.4	81.3	70.8	53.4	86.9
2回目	96	95.0	90.0	84.2	81.6	74.8	70.1	87.2
3回目	91.3	94.0	89.4	84.2	80.9	74.0	69.9	86.7
4回目	100	93.4	87.8	81.8	79.1	73.9	65.7	85.1

(3) 麻痺（左下）

全体として麻痺（左下）は、初回は、「なし」が8,167名（50.6%）、「あり」が7,989名（49.4%）であった。2回目は、「なし」が7,300名（45.2%）、「あり」が8,856名（54.8%）であった。3回目は、「なし」が6,424名（39.8%）、「あり」が9,732名（60.2%）であった。4回目は、「なし」が5,508名（34.1%）、「あり」が10,648名（65.9%）であった。

これらの結果、初回から4回目にかけて「あり」の割合が漸次、増加する傾向がみられた。要介護度別にも非該当から要介護度5までは、「麻痺なし」の割合は、初回から、回数が増加するにしたがって、減少していた。とくに非該当においては、初回の96%から、2回目70%と大きく減少していた。

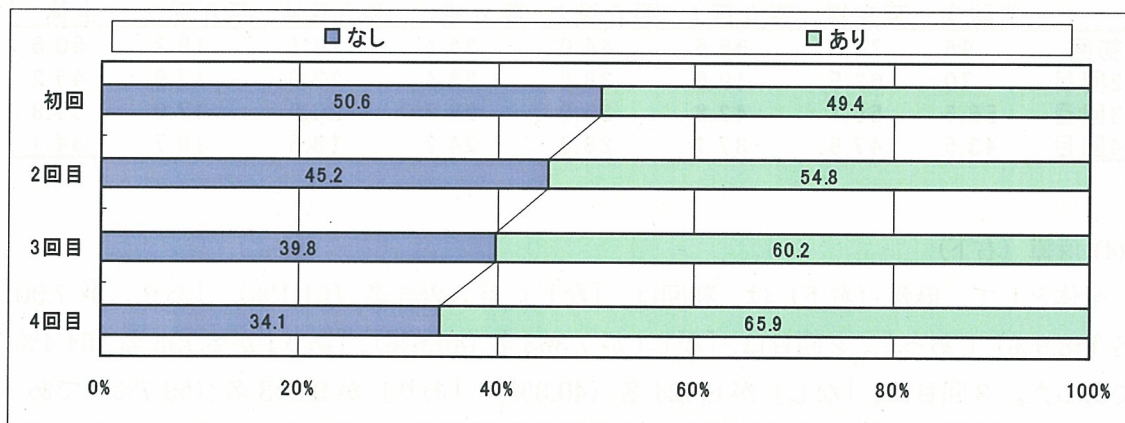


図 26 麻痺（左下）（N=16,156）

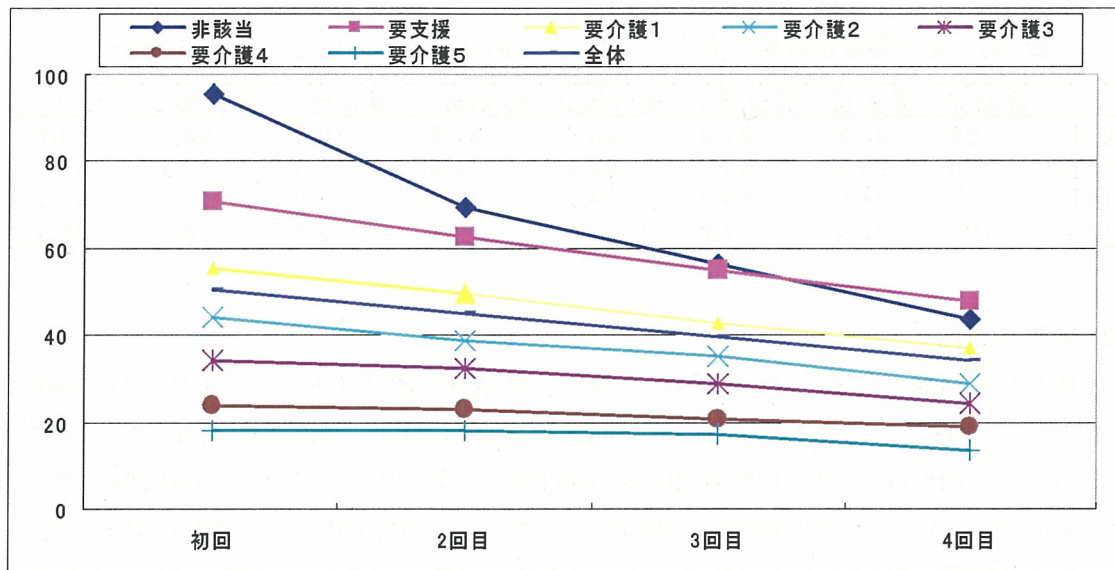


図 27 要介護度別麻痺 (左下) 「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 67 要介護度別麻痺 (左下) 「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	70.8	55.5	44.0	34.4	24.1	18.2	50.6
2回目	70	62.5	49.5	38.8	32.4	23.0	17.9	45.2
3回目	56.5	55.1	42.8	35.0	28.7	20.9	17.0	39.8
4回目	43.5	47.8	37.1	28.8	24.2	18.8	13.7	34.1

(4) 麻痺 (右下)

全体として、麻痺 (右下) は、初回は、「なし」が 8,255 名 (51.1%)、「あり」が 7,901 名 (48.9%) であった。2回目は、「なし」が 7,363 名 (45.6%)、「あり」が 8,793 名 (54.4%) であった。3回目は、「なし」が 6,424 名 (40.3%)、「あり」が 9,643 名 (59.7%) であった。4回目は、「なし」が 5,508 名 (34.6%)、「あり」が 10,570 名 (65.4%) であった。

以上のように、初回から4回目と認定回数が増えるにしたがって、「麻痺あり」の割合も漸次、増加する傾向がみられた。

要介護度別にみると、非該当から要介護4までは、認定回数が増加するにしたがって、「麻痺なし」の割合は減少していた。とくに非該当においては、初回の91%から、2回目65%と大きく減少していた。ただし、要介護5においては、初回の「麻痺なし」13.4%は、2回目において15.2%と増加し、さらに3回目も16.4%と増加していた。4回目は、14.0%と減少していたが、この割合は初回よりも高かった。したがって要介護5においては、3回目において「麻痺なし」の割合が最も高く、初回が、最も低かった。

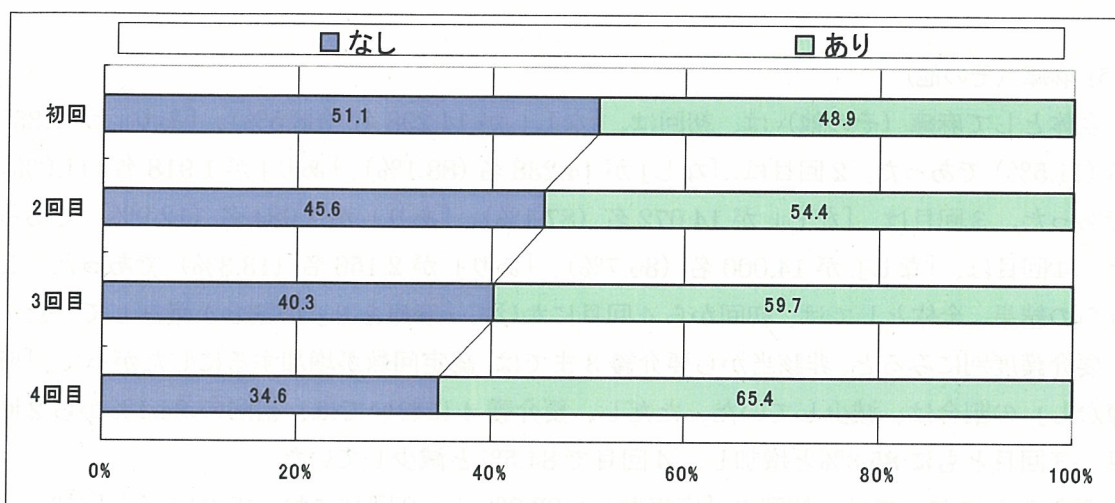


図 28 麻痺 (右下) (N=16,156)

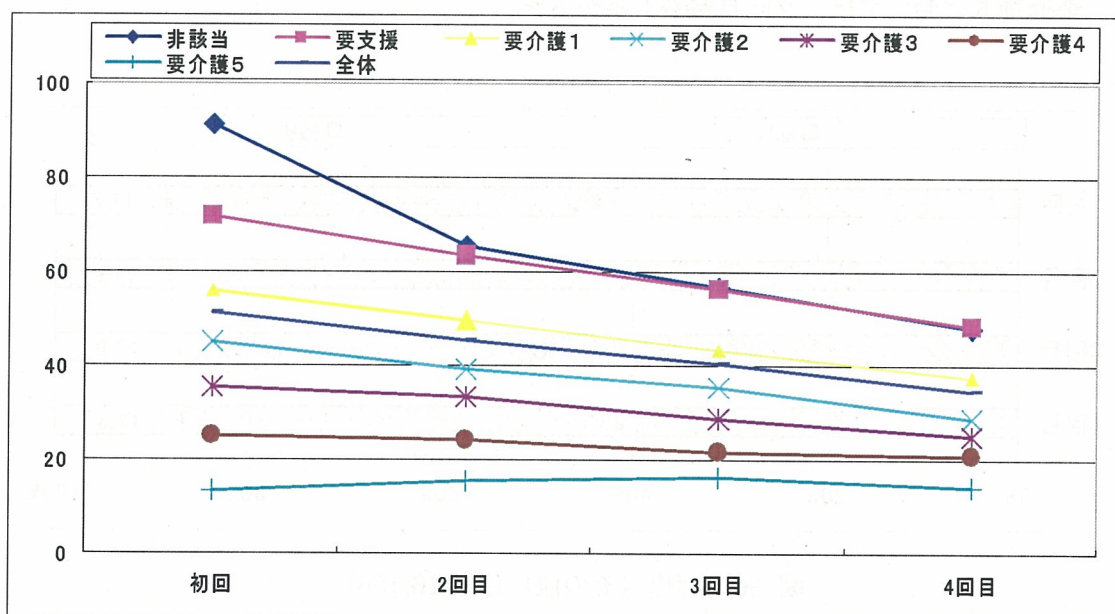


図 29 要介護度別麻痺 (左下) 「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 68 要介護度別麻痺 (左下) 「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91	71.5	55.8	44.9	35.4	25.2	13.4	51.1
2回目	65	63.2	49.5	39.2	33.5	24.0	15.2	45.6
3回目	56.5	56.3	43.1	35.4	28.9	21.6	16.4	40.3
4回目	47.8	48.3	37.7	28.7	24.9	20.7	14.0	34.6

(5) 麻痺（その他）

全体として麻痺（その他）は、初回は、「なし」が14,298名（88.5%）、「あり」が1,858名（11.5%）であった。2回目は、「なし」が14,238名（88.1%）、「あり」が1,918名（11.9%）であった。3回目は、「なし」が14,072名（87.1%）、「あり」が2,084名（12.9%）であった。4回目は、「なし」が14,000名（86.7%）、「あり」が2,156名（13.3%）であった。これらの結果、全体としては、初回から4回目にかけて「麻痺あり」の割合が増加していた。

要介護度別にみると、非該当から要介護3までは、認定回数が増加するにしたがって、「麻痺なし」の割合は、減少していた。ただし、要介護4においては、初回の84.1%から2回目、3回目ともに85.3%と増加し、4回目で84.5%と減少していた。

要介護5においては、初回の「麻痺なし」83.0%は、2回目において84.5%と増加し、3回目は84.2%と減少、4回目も、83.0%と減少していた。

このように要介護4においては、2回目、3回目において「麻痺なし」の割合が最も高く、要介護5においては、2回目が最も高かった。

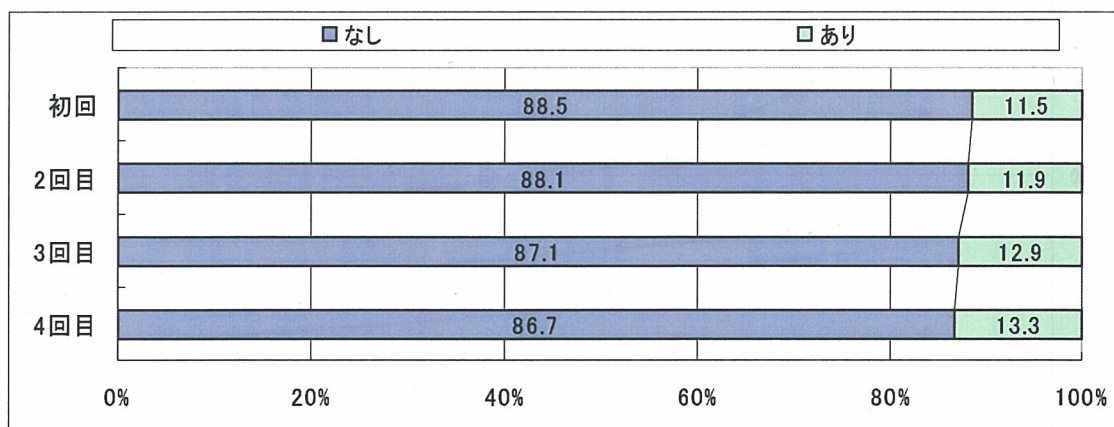


図 30 麻痺（その他）（N=16,156）

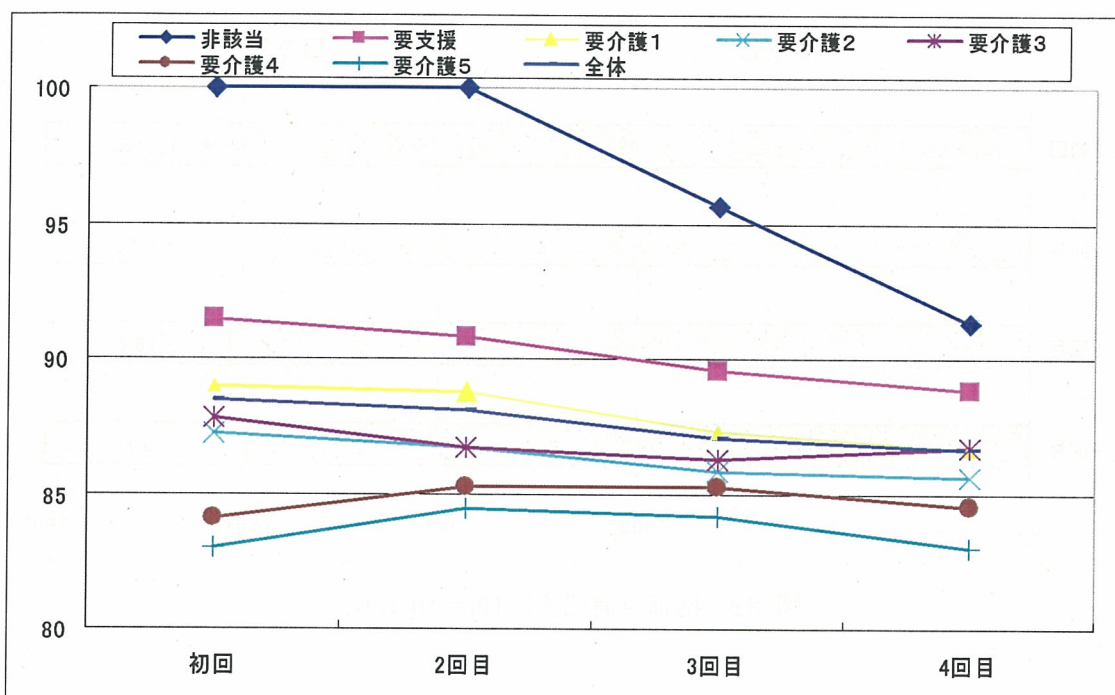


図 31 要介護度別麻痺（その他）「なし」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 69 要介護度別麻痺（その他）「なし」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	91.5	89.0	87.2	87.8	84.1	83.0	88.5
2回目	100	90.8	88.7	86.7	86.7	85.3	84.5	88.1
3回目	95.7	89.6	87.3	85.8	86.3	85.3	84.2	87.1
4回目	91.3	88.8	86.6	85.6	86.7	84.5	83.0	86.7

(6) 拘縮（肩関節）

全体として拘縮（肩関節）は、初回は「なし」が 13,526 名（83.7%）、「あり」が 2630 名（16.3%）であった。2 回目は、「なし」が 13,286 名（82.2%）、「あり」が 2,870 名（17.8%）であった。3 回目は、「なし」が 13,126 名（81.2%）、「あり」が 3,030 名（18.8%）であった。4 回目は、「なし」が 12,879 名（79.7%）、「あり」が 3,277 名（20.3%）であった。以上の結果からは、初回から 4 回目にかけて「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護度別には、要支援から、要介護 4 までは、初回から 4 回目の認定時まで、「拘縮（肩関節）なし」の割合は、漸次減少していた。非該当と要介護 5 においては、初回から 2 回目において、非該当は、87%から 91.0%と増加し、要介護 5 は、62.7%から 66.6%と増加していた。3 回目は、非該当は、69.6%と減少するが、要介護 5 は、66.6%と変化しなかった。4 回目は、非該当は、73.9%と増加していた。要介護 5 は、64.5%と減少していた。

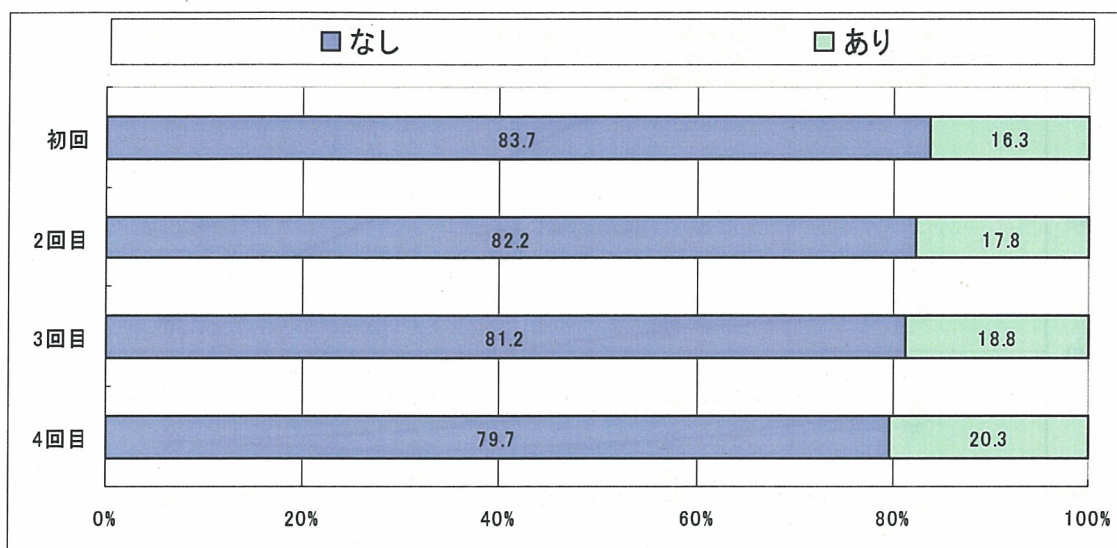


図 32 拘縮（肩関節）(N=16,156)

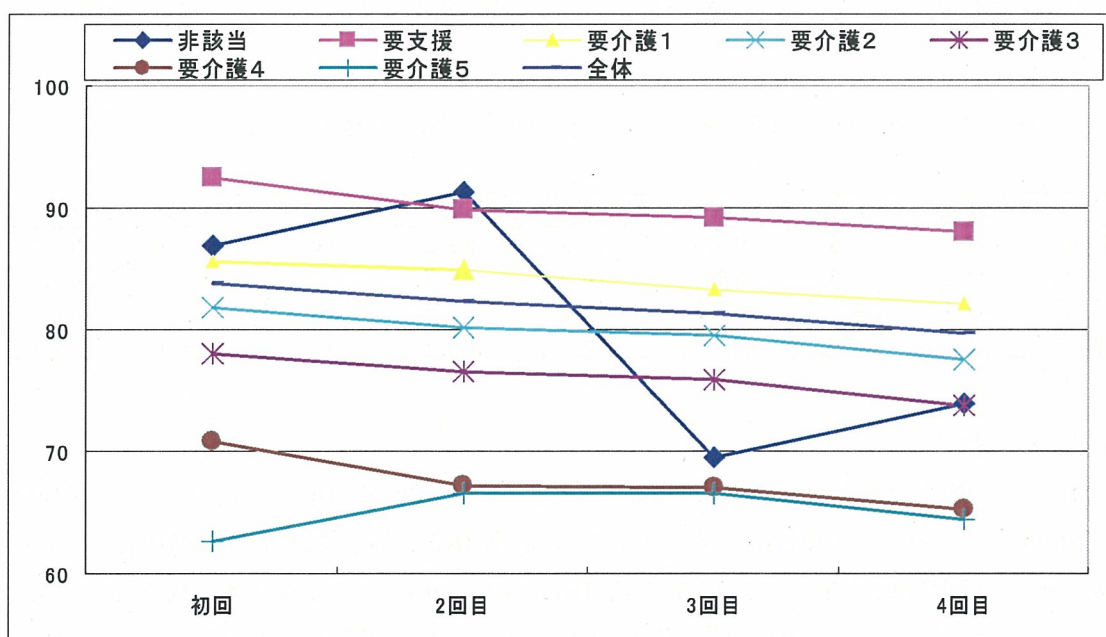


図 33 要介護度別拘縮（肩関節）「なし」の割合（%）の経年的変化 (N=16,156)

表 70 要介護度別拘縮（肩関節）「なし」の割合（%）の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	92.4	85.6	81.8	78.0	70.8	62.7	83.7
2回目	91	89.8	85.0	80.1	76.5	67.2	66.6	82.2
3回目	69.6	89.1	83.3	79.6	75.8	67.0	66.6	81.2
4回目	73.9	88.0	82.1	77.6	73.8	65.2	64.5	79.7

(7) 拘縮（肘関節）

全体として拘縮（肘関節）は、初回は「なし」が15,098名（93.5%）、「あり」が1,058名（6.5%）であった。2回目は、「なし」が15,035名（93.1%）、「あり」が1,121名（6.9%）であった。3回目は、「なし」が14,975名（92.7%）、「あり」が1,181名（7.3%）であった。4回目は、「なし」が14,805名（91.6%）、「あり」が1,351名（8.4%）であった。

このように、全体としては初回から4回目にかけて、「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護別には、要介護2と5以外は、認定回数が増えるにしたがって、「拘縮なし」の割合が減少していた。しかし、要介護2は、2回目の91.1%から3回目に91.4%と増加していた。要介護5は、初回73.7%から、2回目81.5%と大きく増加していた。要介護5は、初回が「拘縮（肘関節）なし」の割合が73.7%と最も低く、2回目が81.5%と最も高かった。

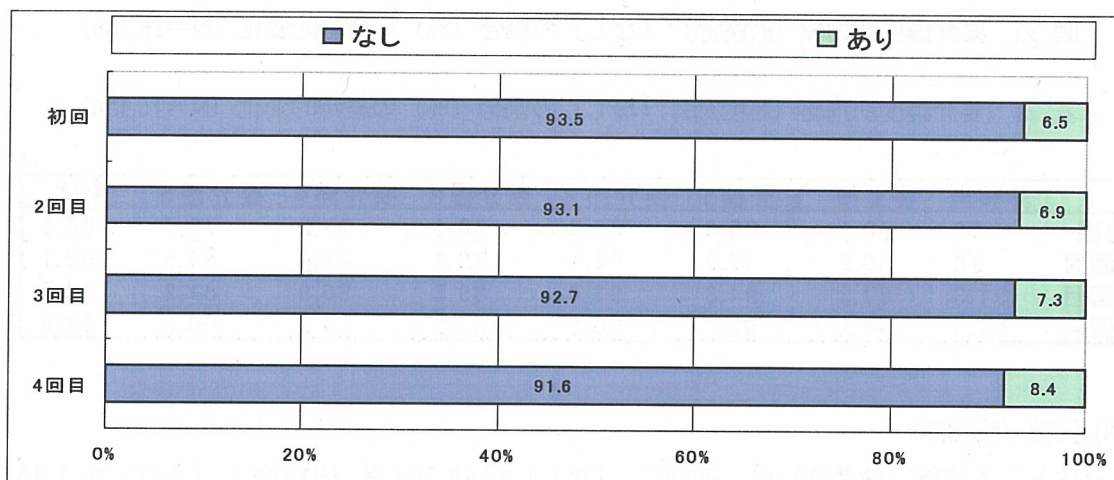


図 34 拘縮（肘関節）（N=16,156）

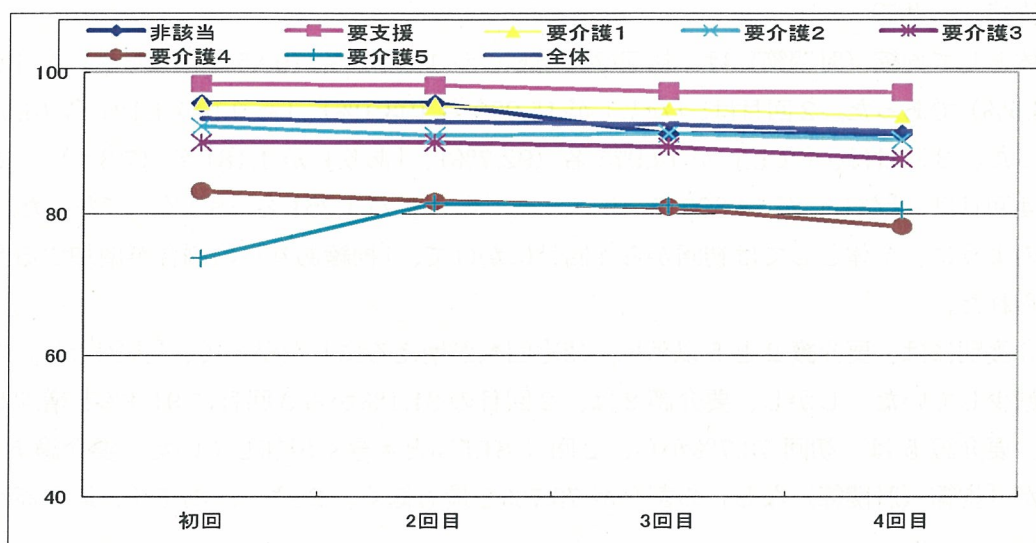


図 35 要介護度別拘縮（肘関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

表 71 要介護度別拘縮（肘関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	96	98.4	95.6	92.3	90.1	83.2	73.7	93.5
2回目	96	98.2	95.2	91.1	90.1	81.8	81.5	93.1
3回目	91.3	97.3	94.8	91.4	89.5	80.9	81.2	92.7
4回目	91.3	97.2	93.7	90.5	87.8	78.2	80.6	91.6

(8) 拘縮（股関節）

全体として拘縮（股関節）は、初回は、「なし」が 14,701 名（91.0%）、「あり」が 1,455 名（9.0%）であった。2 回目は、「なし」が 14,676 名（90.8%）、「あり」が 1,480 名（9.2%）であった。3 回目は、「なし」が 14,588 名（90.3%）、「あり」が 1,568 名（9.7%）であった。4 回目は、「なし」が 14,371 名（89.0%）、「あり」が 1,785 名（11.0%）であった。

以上のように、全体的には初回から 4 回目にかけて「拘縮あり」の割合が増加する傾向がみられた。

要介護別には、要支援から要介護 2 までは、認定回数が増加するにしたがって、「拘縮（股関節）」は漸次、減少していた。しかし、他の要介護度においては、例えば、非該当では、2 回目は 91% と減少するが、3 回目に 95.7% と増加し、4 回目は 87.0% とかなり減少していた。要介護 3 と 4 は、2 回目にそれぞれ、88.4%、81.6% と増加するが、3 回目に 87.1%、80.4%、4 回目にも 84.6%、77.9% と減少していた。要介護 5 は、2 回目 79.1%、3 回目 80.3% と増加を続け、4 回目で 77.9% と減少するというパターンであった。要介護 5 は、初回において「拘縮（股関節）なし」の割合が最も低かった。

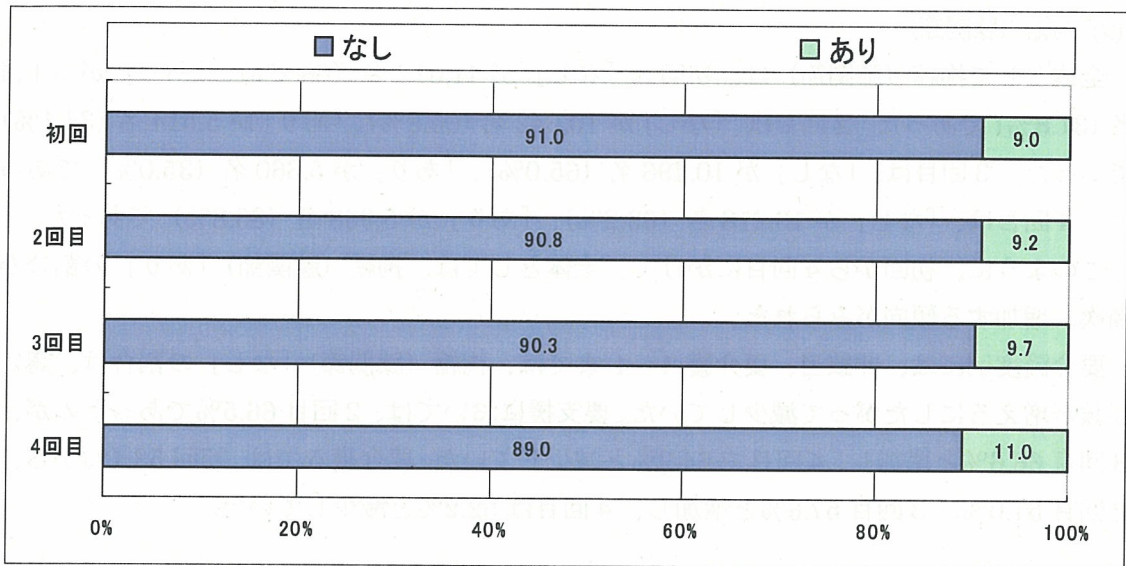


図 36 拘縮（股関節）(N=16,156)

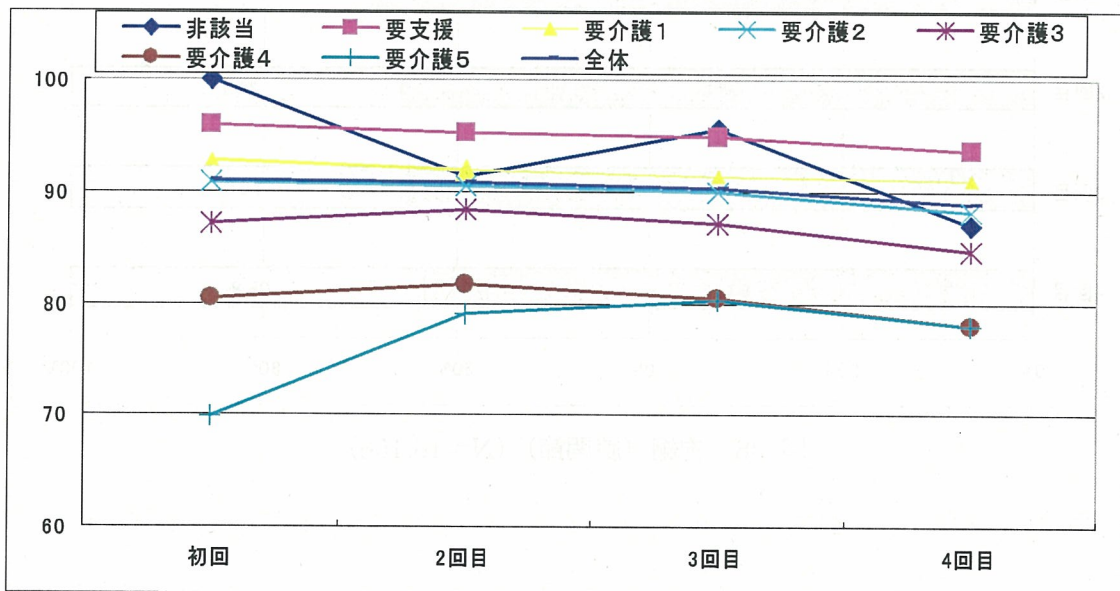


図 37 要介護度別拘縮（股関節）「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 72 要介護度別拘縮（股関節）「なし」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	96.0	92.8	90.8	87.1	80.4	69.9	91.0
2回目	91	95.2	91.9	90.4	88.4	81.6	79.1	90.8
3回目	95.7	94.9	91.4	89.9	87.1	80.4	80.3	90.3
4回目	87.0	93.6	90.9	88.3	84.6	77.9	77.9	89.0

(9) 拘縮（膝関節）

全体として拘縮（膝関節）は、初回は「なし」が11,012名（68.2%）、「あり」が5,144名（31.8%）であった。2回目は、「なし」が10,642名（65.9%）、「あり」が5,514名（34.1%）であった。3回目は、「なし」が10,496名（65.0%）、「あり」が5,660名（35.0%）であった。4回目は、「なし」が10,218名（63.2%）、「あり」が5,938名（36.8%）であった。

このように、初回から4回目にかけて、全体としては、拘縮（膝関節）「あり」の割合が漸次、増加する傾向がみられた。

要介護度別には、非該当、要介護1～4までは、拘縮（膝関節）「なし」の割合は、認定回数が増えるにしたがって減少していた。要支援においては、2回目66.5%であったのが、3回目66.6%と増加し、4回目64.9%と減少していた。要介護5では、初回53.1%から、2回目57.0%、3回目57.6%と増加し、4回目は52.2%と減少していた。

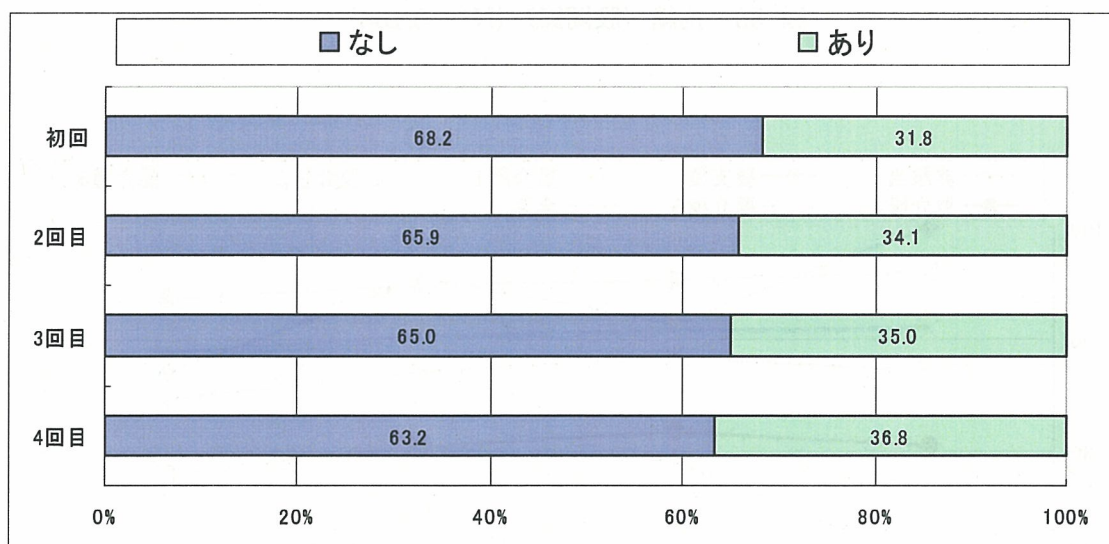


図 38 拘縮（膝関節）（N=16,156）

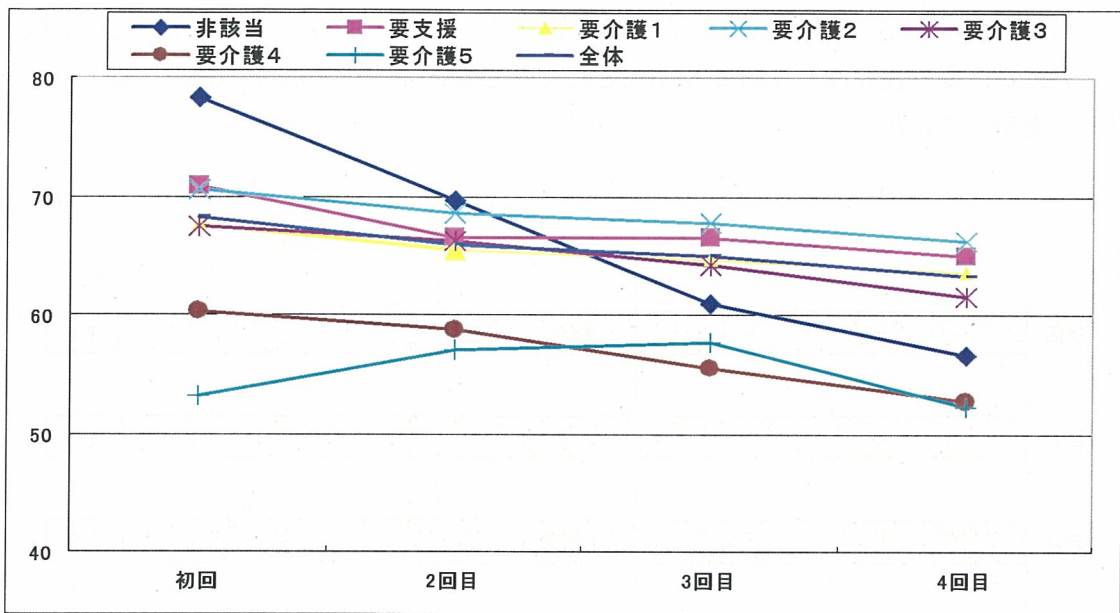


図 39 要介護度別拘縮（膝関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

表 73 要介護度別拘縮（膝関節）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	78	70.9	67.6	70.6	67.4	60.3	53.1	68.2
2回目	70	66.5	65.5	68.5	66.3	58.8	57.0	65.9
3回目	60.9	66.6	64.7	67.8	64.2	55.6	57.6	65.0
4回目	56.5	64.9	63.6	66.2	61.6	52.7	52.2	63.2

(10) 拘縮（足関節）

全体として拘縮（足関節）は、初回は「なし」が14,965名（92.6%）、「あり」が1,191名（7.4%）であった。2回目は、「なし」が14,919名（92.3%）、「あり」が1,237名（7.7%）であった。3回目は、「なし」が14,908名（92.3%）、「あり」が1,248名（7.7%）であった。4回目は、「なし」が14,786名（91.5%）、「あり」が1,370名（8.5%）であった。このように、「拘縮（足関節）あり」の割合は初回から2回目にかけては増加するが、3回目は変化なしで、4回目8.5%と増加していた。

要介護度別には、非該当は、すべての認定時において「拘縮（足関節）なし」であった。要支援では、認定回数が増えるにしたがって、「拘縮（足関節）なし」の割合は減少していた。要介護1から3までは、初回から2回目までは減少し、3回目で増加、4回目で再び減少というパターンを示していた。要介護1は、初回の94.4%から94.0%へ、3回目94.2%、4回目93.6%となっていた。要介護2も初回の91.9%から91.5%へ、3回目91.9%、4回目90.8%となっていた。要介護3も初回の89.2%から88.1%へ、3回目81.4%、4回目87.4%となっていた。要介護4と5は、初回から2回目に、それぞれ、81.5%から83.4%

へ、77.0%から81.8%と増加していた。要介護4は、3回目82.0%、4回目80.6%と減少していたが、要介護5は、3回目81.8%と変化なしで、4回目80.9%と減少するというパターンを示していた。

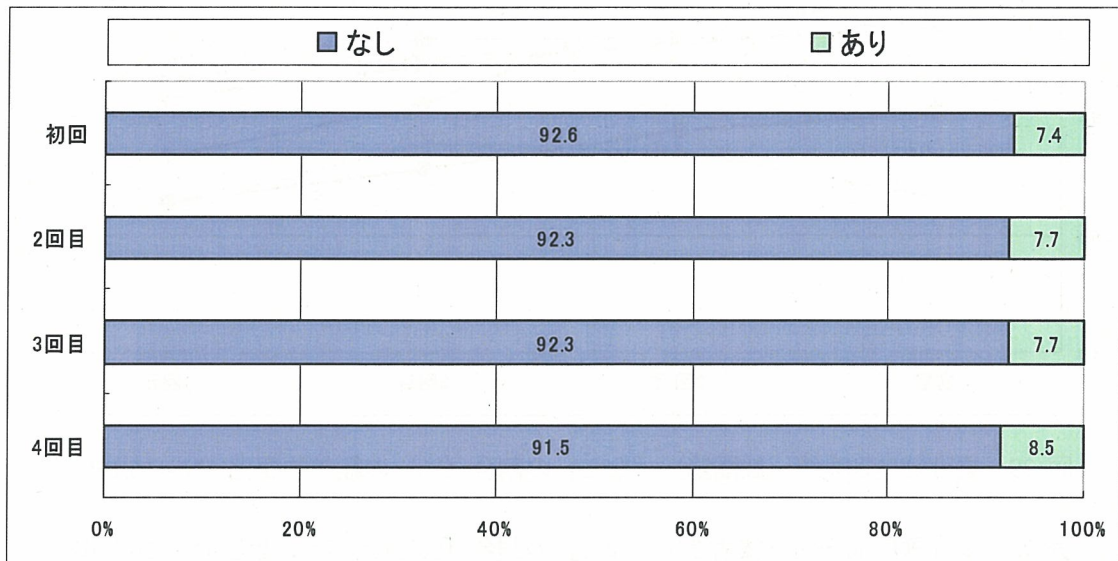


図 40 拘縮（足関節）（N=16,156）

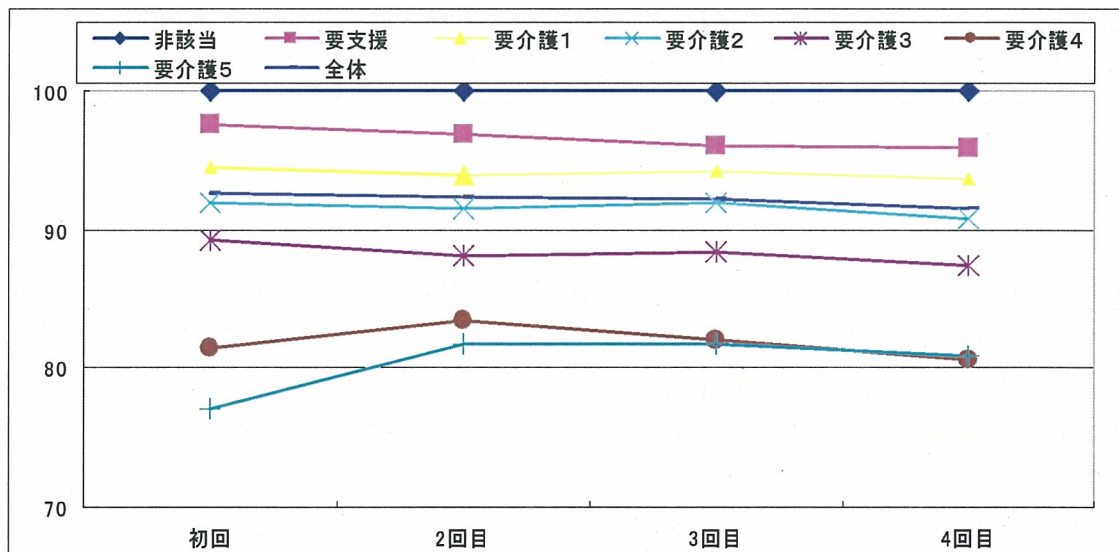


図 41 要介護度別拘縮（足関節）「なし」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 74 要介護度別拘縮（足関節）「なし」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	97.6	94.4	91.9	89.2	81.5	77.0	92.6
2回目	100	96.9	94.0	91.5	88.1	83.4	81.8	92.3
3回目	100	96.1	94.2	91.9	88.4	82.0	81.8	92.3
4回目	100	95.8	93.6	90.8	87.4	80.6	80.9	91.5

(11) 拘縮（その他）

全体として拘縮（その他）について、初回は「なし」が13,598名（84.2%）、「あり」が2,558名（15.8%）であった。2回目は、「なし」が13,672名（84.6%）、「あり」が2,484名（15.4%）であった。3回目は、「なし」が13,686名（84.7%）、「あり」が2,470名（15.3%）であった。4回目は、「なし」が13,650名（84.5%）、「あり」が2,506名（15.5%）であった。

このように、結果、「拘縮（その他）あり」については、初回から3回目まで、減少し、4回目にかけて「あり」が増加していた。

要介護度別には、多様な変化のパターンを示していた。認定回数が増えるにしたがって、「拘縮（その他）なし」が減少していたのは、非該当と要介護4であった。要介護5は、非該当等とは、逆に認定回数が増えるにしたがって、「拘縮（その他）なし」が増加していた。要支援と要介護2は、3回目まで、「拘縮（その他）なし」が増加し、4回目で減少していた。要介護1では、2回目に「拘縮（その他）なし」が増加し、3回、4回目と減少しており、この項目については、要介護度によって、多様なパターンが示された。

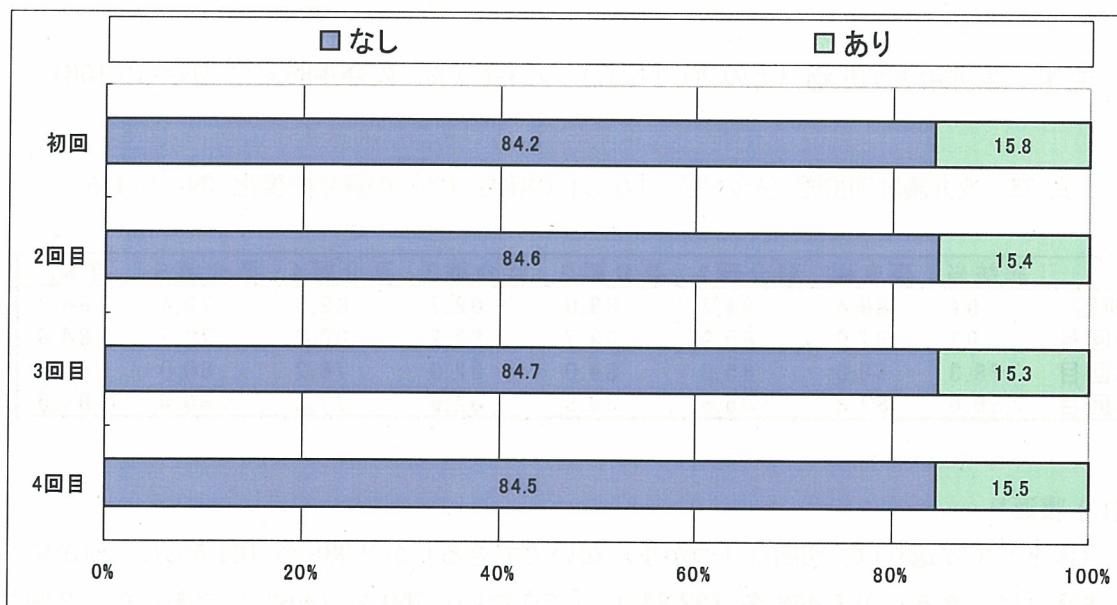


図 42 拘縮（その他） (N=16,156)

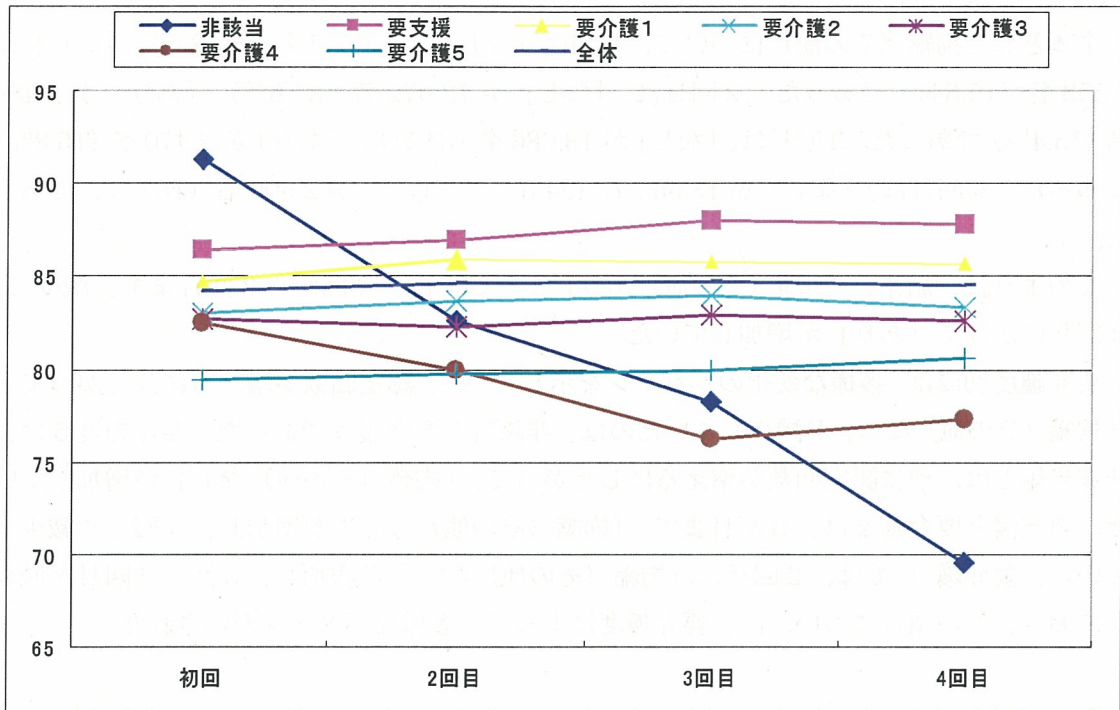


図 43 要介護度別拘縮（その他）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

表 75 要介護度別拘縮（その他）「なし」の割合（％）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91	86.4	84.7	83.0	82.7	82.5	79.4	84.2
2回目	83	87.0	85.9	83.7	82.2	80.0	79.7	84.6
3回目	78.3	88.0	85.8	84.0	82.9	76.2	80.0	84.7
4回目	69.6	87.8	85.6	83.3	82.6	77.3	80.6	84.5

(12) 寝返り

全体として寝返りは、初回は「つかまらないうでできる」が 9,938 名 (61.5%)、「何かにつかまればできる」が 5,468 名 (33.8%)、「できない」 750 名 (4.6%) であった。2 回目は、「つかまらないうでできる」が 9,536 名 (59.0%)、「何かにつかまればできる」が 5,998 名 (37.1%)、「できない」が 622 名 (3.8%) であった。3 回目は、「つかまらないうでできる」が 8,940 名 (55.3%)、「何かにつかまればできる」が 6,525 名 (40.4%)、「できない」が 691 名 (4.3%) であった。4 回目は、「つかまらないうでできる」が 7,962 名 (49.3%)、「何かにつかまればできる」が 7,111 名 (44.0%)、「できない」が 1,083 名 (6.7%) であった。

これらの結果、寝返りについては、「何かにつかまればできる」、「できない」という寝返りに何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、認定回数が増加するにしたがって、

増加していた。しかし、「できない」高齢者は、初回から2回目で減少し、3回目、4回目と増加するというパターンを示していた。

要介護度別には、非該当から要介護2までは、寝返りが自立の高齢者の割合は、初回から4回目まで、認定回数が増加するにしたがって減少していたが、要介護3から5までは、初回よりも2回目の自立割合が高くなる傾向がみられた。この傾向は、要介護5に顕著で、初回の自立者割合は、わずか9.6%であったのに対し、2回目は22.1%と増加していた。

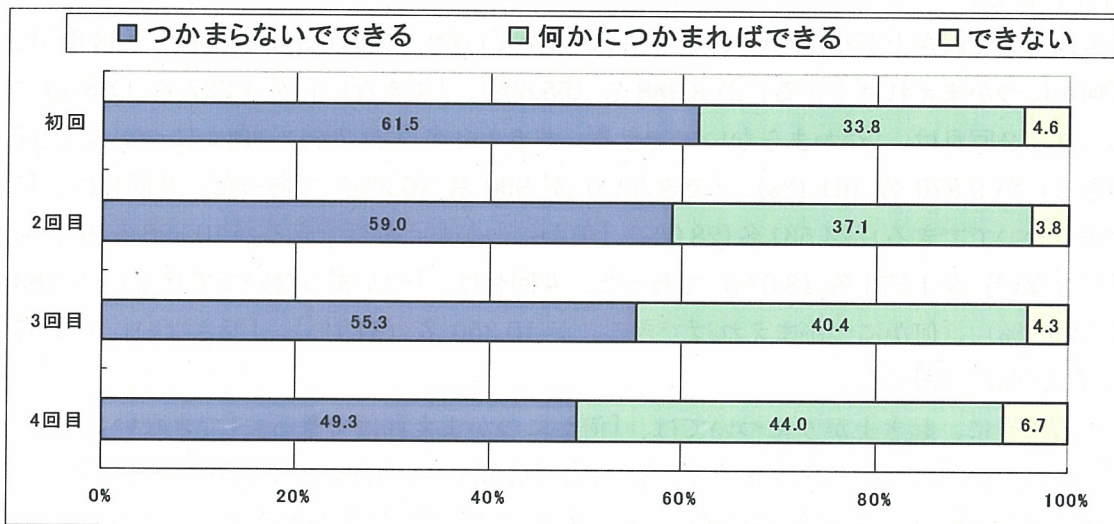


図 44 寝返り (N=16,156)

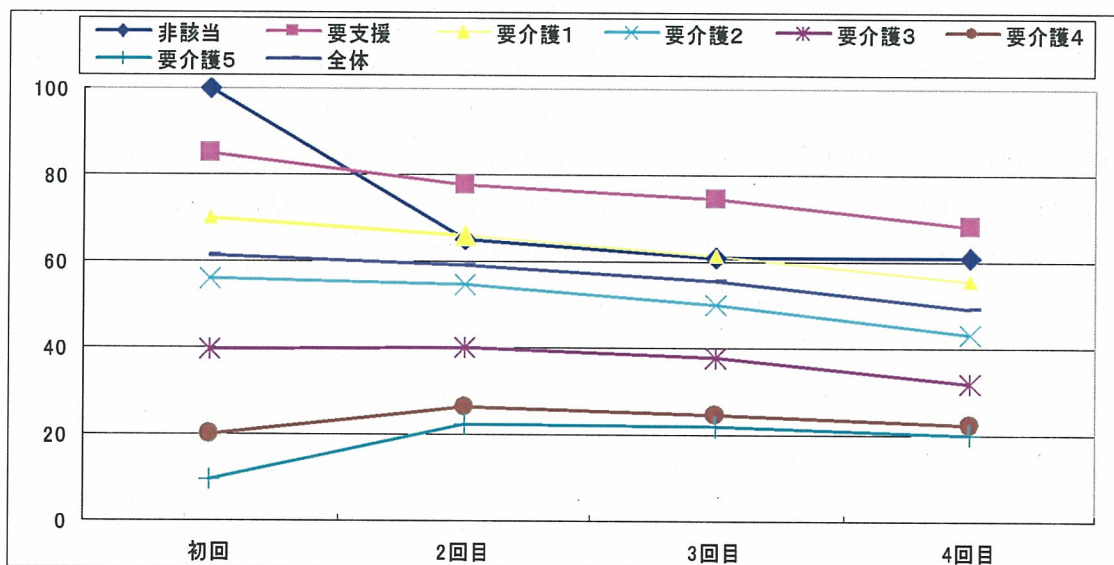


図 45 要介護度別寝返り「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 76 要介護度別寝返り「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	84.9	70.1	55.7	39.7	20.2	9.6	61.5
2回目	65	77.9	66.0	54.5	40.1	26.2	22.1	59.0
3回目	60.9	74.5	61.5	50.2	37.8	24.7	21.8	55.3
4回目	60.9	68.0	55.4	43.1	31.7	22.2	20.0	49.3

(13) 起き上がり

全体として起き上がりについては、初回は「つかまらないでできる」が 5,941 名 (36.8%)、「何かにつかまえばできる」が 8,988 名 (55.6%)、「できない」が 1,227 名 (7.6%) であった。2 回目は、「つかまらないでできる」が 5,290 名 (32.7%)、「何かにつかまえばできる」が 9,870 名 (61.1%)、「できない」が 996 名 (6.2%) であった。3 回目は、「つかまらないでできる」が 4,531 名 (28.0%)、「何かにつかまえばできる」が 10,328 名 (63.9%)、「できない」が 1,973 名 (8.0%) であった。4 回目は、「つかまらないでできる」が 3,833 名 (23.7%)、「何かにつかまえばできる」が 10,350 名 (64.1%)、「できない」が 1,973 名 (12.2%) であった。

このように、起き上がりについては、「何かにつかまえばできる」「できない」という何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回から 4 回目にかけて増加していた。

要介護度別には、要支援、要介護 1 から 3 までは、認定回数が増えるにしたがって、自立割合が減少していた。

しかし、非該当は、初回の 78% から 2 回目に自立割合が 30% と急激に減少するが、3 回目に 34.8% と増加し、4 回目に 21.7% となるというパターンを示していた。

要介護 4 と 5 は、2 回目に自立割合が、それぞれ 8.2% から 11.5%、3.0% から 6.6% とかなり増加していた。要介護 4 は、3 回目には 10.0% と減少するが、要介護 5 は、3 回目も 8.1% と増加を続けていた。ただし、4 回目には要介護 4、5 とともに、3 回目よりも自立割合は 8.6%、6.0% 減少する。しかし、これらの値は初回よりも高い割合であることから、要介護 4、5 においては、初回が最も自立割合が低かった。

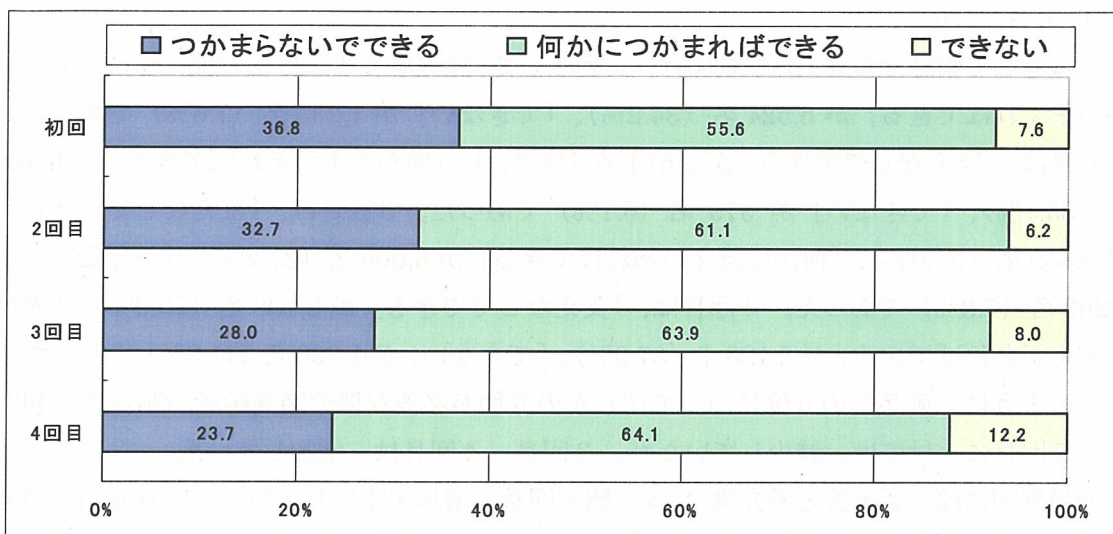


図 46 起き上がり (N=16,156)

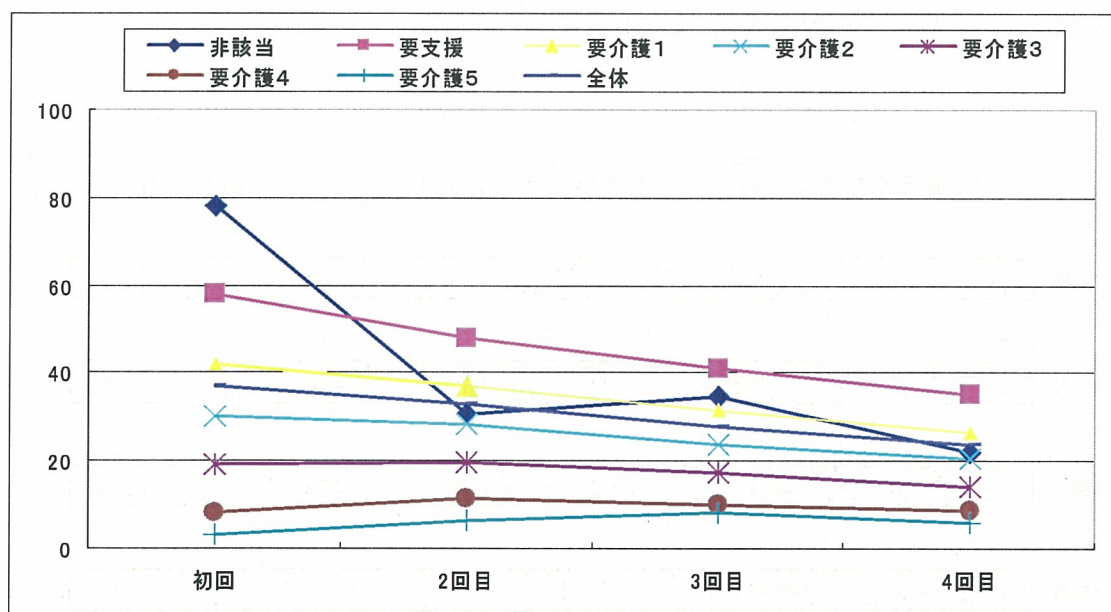


図 47 要介護度別起き上がり「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

表 77 要介護度別起き上がり「つかまらないでできる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	78	57.8	42.2	30.3	19.4	8.2	3.0	36.8
2回目	30	47.9	37.1	28.3	19.4	11.5	6.6	32.7
3回目	34.8	41.2	31.5	23.9	17.1	10.0	8.1	28.0
4回目	21.7	35.2	26.6	20.4	14.0	8.6	6.0	23.7